分　野	文化
地　域	唐津

国指定重要文化財　旧高取邸

～明治時代の炭鉱王が遺した代表的な近代和風建築物～

旧高取邸は、杵島炭鉱などの炭鉱主として知られる高取伊好の邸宅です。唐津城本丸の西南の海岸沿い、約2,300坪の広大な敷地に、大きく2棟の建物が建っています。

平成6年から平成7年にかけて行われた国の近代和風建築総合調査でその重要性が確認され、平成10年12月に国の重要文化財の指定を受けました。

この邸宅は、伊好が自宅兼迎賓のために、明治38年（1905）に建てたものです。大広間棟にある板敷きの能舞台、植物の浮き彫りや型抜きの動物を施した欄間、杉板戸の絵など和風を基調としながらも、洋館を設けるなど当時の最新の優れた意匠を見ることができ、近代和風建築のすばらしさが堪能できます。

特に藤、山桜、垂れ桜、菊、松、紅葉が描かれた29種類72枚の杉戸絵は京都四条派の絵師：水野香圃が約半年くらい滞在して描いたといわれています。自然の豊かさがいっぱいです。

来賓用の玄関と主人用、家族用と３つもある玄関。風呂も家族用と使用人用と別々にありました。外にはワインセラーの建物もあり、当時の豪商のすごさを伺うことができます。

平成13年から17年度にかけて、文化庁の指導のもと、修復・復原工事を行い、建築規模が最大となった昭和初期の状態に復元しました。

■所在地

唐津市北城内5番40号

■開館時間

午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

■休館日

・月曜日（月曜が祝日の場合は開館、翌日休館）

・12月29日から1月3日まで

※連休や年末年始には、特別開館する場合があります。

■入場料

・大人（15歳以上）500円

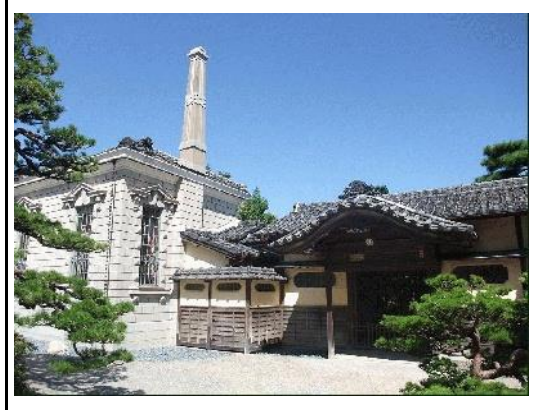
・小人（4歳～14歳）250円

＜20人以上は団体割引（2割引）＞

■問い合わせ

旧高取邸　TEL 0955-75-0289

◎地図・写真・統計資料など



旧高取邸　外観

旧高取邸　能舞台

（唐津市ポータルサイトより）

◎引用・参考文献（出典）

◆唐津市ポータルサイトより抜粋
◆唐津観光協会
◆唐津観光協会HP
◆『唐津市の文化財』唐津市教育委員会

◎エピソード・伝承・うんちく　など

■高取伊好（たかとりこれよし）のプロフイール

1850年、多久藩の儒臣、鶴田斌（ひとし）の三男として誕生、9歳のとき姉の嫁ぎ先である高取の養子となりその家督を継いだ。

1871年、上京し「慶應義塾」にすすみ英学・鉱山学を学ぶ。

慶應義塾卒業後、官費学校の「鉱山寮」に入学。採炭技術を学んだ後、工部省に採用され高島炭鉱に赴任。長崎・佐賀県の炭鉱開発を行い、高島炭坑取締役、明治唐津鉱業組合長となる。

1885年、独立し多久市の柚ノ木原炭鉱などの開発を手がけるが、三菱など大資本に押されたうえ、大恐慌も重なり苦戦する。

1909年、杵島炭坑を買収し大規模開発に成功。従業員5,000人を抱え、「肥前の炭鉱王」の異名をとる。

1927年、没

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

1